

高次脳機能障がい “ シナプス ” ニュースレター

第15号 (平成26年9月1日)

★高次脳機能障がいコーディネーターだより

『高次脳機能障がい者の生活支援 ～生活版ジョブコーチ支援』の研修を実施しました。

平成26年6月、宮崎県総合保健センターで高次脳機能障がい者の生活支援の研修会が開催されました。

講師は、臨床心理士の資格も持たれ、長く高次脳機能障がい者の支援に携わっておられる方です。

今回、その内容のポイントをご報告します。

【高次脳機能障がい者の生活支援 ～生活版ジョブコーチ支援～】

講師：岐阜医療科学大学保健科学部看護学科
教授（名古屋市総合リハビリテーションセンター高次脳機能障害アドバイザー）
阿部 順子 先生

◎高次脳機能障害支援の基本

■ 構造的支援の実施

<構造的支援とは>

- ・ 全員一致のアプローチ
- ・ 先の見通しを示しつつ、ショートゴールを積み重ねてステップアップを図る。
- ・ 環境の構造化と生活基盤整備
↓
- ・ 混乱しているとうまく行動できない。
ガードレールや標識、ナビを使って安心・安定して走行できるようにする。

<構造的支援のポイント>

- ・ 本人の**納得**を取り付けてことを進める。
納得のところでボタンの掛け違いをしないことが大事！
- ・ **具体的に**決めてやる。
- ・ **メモや図**を用いて**確認**や説明をする。
- ・ 目標、方法、結果の**つながりを明示**する。

<周囲の適切な対応>

- ・ 興奮を避けるため → 対立しない。
- ・ 感情爆発やこだわりが強い場合 → 説得や指摘をしない。
- ・ 刺激となるキーワードや状況を避け、場面や話題を変える。
- ・ 肯定的な評価 → 約束したことが出来たらほめる等。
- ・ 本人が理解できる**簡潔な説明**をし、取るべき行動を教える。
- ・ **具体的に指示**する。
- ・ 周囲が一致した対応をする。

<本人への対応>

- ・ 結果に対する**プラス点、マイナス点（損得の方が理解しやすい）**のフィードバックと行動の記録。
- ・ 記憶障害があるので、「体で分かる」まで繰り返して教える（刷り込み）
- ・ 記憶は、当てにならない。**記録**で仕事する。

<環境を作る>

- ◎丁寧な支援の手が足りていない。
- ・環境の構造化⇒混乱や失敗を減少させ自立的な行動を増やす。
 - ①生活全体の構造化：ルールや置く場所を一定にする、行動スケジュールを決めておく。
 - ②ヒントツールの作成：貼紙、メモ、手順書、チェックリスト等。
 - ・本人の居場所作り⇒本人のできる活動、気に入った活動があり、仲間がいる、周囲に認めてもらえる。
自分が、孤独であり、イライラしてくると暴力が出る。
作業所も利用すると良いのでは？

<生活基盤整備も大事>

- ・住環境
- ・経済的環境：医師の診断書が鍵
- ①経済的補償：公的年金、労災補償、自動車事故の場合は賠償金、生命保険
- ②経済的支援：障害者手帳を取得し、各種手当、医療費の助成、交通費の減免など

■生活版ジョブコーチ支援とは

名古屋リハビリテーションセンターで造った表現で、専門職が地域に出向いて支援するアウトリーチ型の福祉サービスに対してつけた名前。

☆生活を自立させるのは⇒生活訓練

☆より効果をあげるには⇒生活する場で
☆訪問型生活訓練

= 生活版ジョブコーチ支援

☆専門職 = 生活版ジョブコーチ

《まとめ》

名古屋も最初からこのような支援システムがあったわけではない。造っていった。訪問支援事業は、京都も行っている。

高次脳機能障がいの方は、以前の自分を覚えているのでプライドを持っている。以前の自分のように扱って欲しいと思っている。普通の生活を取り戻したいと思っていることを支援者は分かっているとトラブルが起こる。

以上、講師の阿部先生のお話をまとめさせていただきました。



問合せ先

高次脳機能障がい総合相談・支援拠点機関：宮崎県身体障害者相談センター
担当 有木 平田

住所 宮崎市霧島1丁目1番地2

電話 0985-29-2556 F A X 0985-31-3553

E - m a i l shintaishogaisha-sodan-c@pref.miyazaki.lg.jp

